未完成交響楽（1933）

LEISE FLEHEN MEINE LIEDER

メディア 映画
ジャンル 伝記　ドラマ　音楽
製作国 ドイツ／オーストリア
色彩 B&W
時間 88分
初公開日 1935/03
公開情報 劇場公開

【解説】

ロマンティックな楽聖シューベルトの伝記映画で、本国ドイツでの評判は必ずしもよくなかったようだが、日本では戦前ドイツ映画の代表傑作と認められ、大ヒットした。

貧しいシューベルト（Ｈ・ヤーライ）がギターを質入れすると、同情した質屋の娘エミー（Ｌ・ウルリッヒ）は規定以上の金にゲーテの詩集を添えて渡す。小学校で教えながら、音楽の勉強を続ける彼は、ある日、算数の授業中、数字が音符となり、子供たちが『野バラ』を唄う幻をみる。生活を憐れんだ友人に誘われ、彼は侯爵夫人の夜会に出席、後に交響曲『未完成』として知られる曲をピアノで披露する。弾くうちにインスピレーションが沸いた所を、フィアンセの耳打ちに笑い出した夫人の姪に腹を立て、演奏を止める。これを夫人は咎めるが、同時に姪の無礼を侘びる。暫くして、ハンガリーの伯爵から音楽の家庭教師に招かれた彼は行って驚いた。その生徒こそ先日の姪っ子カロリーネ（ソプラノ歌手＝Ｍ・エゲルト）。彼女は彼の毅然たる音楽への姿勢に共鳴し、教わるうち恋に落ちてゆく。しかし、彼と結婚すると言う娘を父伯爵は当然許さず、シューベルトは罷免される。それから数カ月、結局、親の決めた相手に嫁ぐカロリーネだったが、その華燭の典にシューベルトも招かれ、『未完成』をピアノで弾くと、やはり途中でカロリーネが慟哭の挙げ句、失神してしまう……。

永遠に未完成のままの名曲の成立ちは無論こんなではない。あくまで劇の都合にいいような牽強付会の解釈なのだが、フォルスト（「たそがれの維納（ウィーン）」）は巧みな映像表現でこれを頷かせてしまう。そして、本来なら悲劇の作曲家の死で終わる他ない映画を、明るい希望に包ませたまま終えるのだ。

【クレジット】

監督	ヴィリ・フォルスト	Willi Forst
脚本	ヴィリ・フォルスト	Willi Forst
撮影	フランツ・プラナー	Franz Planer
音楽	ウィリー・シュミット＝ゲントナー	Willy Schmidt-Gentner
出演	ハンス・ヤーライ	Hans Jaray
	ルイーゼ・ウルリッヒ	Luise Ullrich
	マルタ・エゲルト	Martha Eggerth
	オットー・トレスラー	Otto Tresler

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.